

問 関市長の幹部職員に対するパワーハラの発言疑惑に関する報道の音声データへの見解は。市議会本会議において市長の了解なしの答弁を行っており、このような前例がないことから是正するよう厳しく指示したものである。

答 経済の持続的な発展と若い人たちの夢と希望のかなう市政の実現に向け、一歩ずつ前進させてきた。特に「市民との対話と透明な市政の確立」や「国や県、隣接市町村との連携回復」、「品格と風格のあるまちづくり」に力を入れ、大きく前進したものと捉えている。

問 関市政のこれまでの成果と今後の見通しについて

答 関市政の3年間に於いて、市長が成し遂げた主な成果は何か。

答 経済の持続的な発展と若い人たちの夢と希望のかなう市政の実現に向け、一歩ずつ前進させてきた。特に「市民との対話と透明な市政の確立」や「国や県、隣接市町村との連携回復」、「品格と風格のあるまちづくり」に力を入れ、大きく前進したものと捉えている。



パワーハラスメントについて

問 職場環境や組織全体、職員の心身に与える影響について、市長の認識は。

答 パワーハラスメントは被害者に対し、精神や健康の状態に支障を及ぼし、休職や退職に至らせる可能性がある人権侵害であるとともに、職員の勤労意欲を低下させ、能力の発揮を阻害するだけでなく、職場の秩序や業務の円滑な遂行に支障を及ぼすほか、組織としての社会的信用の低下を招くものと認識している。

質問した項目

- 関市政のこれまでの成果と今後の見通しについて
- パワーハラスメントについて



録画配信はこちらから

戸田 芳孝 議員（鹿山会）

質問時間 30分

笹本 真司 議員（無会派）

質問時間 60分

質問した項目

- 鹿角市の医療体制とダウンサイジングについて
- 公共施設のダウンサイジングについて
- 鹿角市の「消滅可能性」回避について
- 義務教育における不登校児童への対応について

問 第7次総合戦略で令和12年度の中核病院の常勤医数目標の25人の根拠は。（令和元年度実績19人、令和4年度実績17人）

答 平成22年のかづの厚生病院開院時の常勤医師の計画数を目指値として設定したものである。



鹿角市の医療体制とダウンサイジングについて

問 来年度からの厚生病院小児科常勤医派遣中止により病児保育室への影響は。

答 常勤医派遣取りやめの影響はない。

問 産婦人科や小児科の最低限の維持水準について、市の基準はあるか。

答 2つの診療科を維持していく基準はない。県・市・小坂町で財政支援を続け、可能な限り維持を図る。

問 更なる廃止縮小圧力の中、医療体制

答 総量は基準値の平成29年度と比べ令和4年度で約4%減、管理運営費は令和5年度で約13億円である。※平成26年度は約9・4億円

の縮小速度抑制や補完体制構築が最優先であり、市長公約の産婦人科分娩再開は現実的ではないのでは。

答 簡単には解決できない状況だが、医師確保に必要な財源・人材・施設について要望を継続するなど、引き続き、粘り強く取り組んでいく。

問 公共施設のダウンサイジングについて

答 市の計画では15年間で総量と運営費の各7・5%ほど縮減が目標だが、最新縮減進捗率と運営費用は。



録画配信はこちらから